

山の百名花

講師 宮下 裕史

【71】ミツガシワ

「ミツガシワ科、ミツガシワ属。湿原や沼地に生える多年草。葉が3枚の小葉からなり、かしの葉に似ているのでミツガシワと名づけられた。花期は4月〜6月」と花の本にあります。

純白の花びらから生える無数のフリル（糸状の長毛）と、花芯の黄色と花弁先端の赤色の、絶妙のコンビネーションが、この花を「豪華な花」に仕立て上げています。1986年初夏、尾瀬ヶ原での印象的な出会いでした。

当時、日本百名山を精力的に歩いていて、このときは至仏山（49山目）と燧岳（50山目）の2山に1泊2日で登りました。

至仏山から山ノ鼻へ下り、原の小屋に向かう木道で、水面から茎が生えている不思議な花が眼に入ったのです。「ミツガシワだよ」と宿の人に教えて貰い、その名前を知りました。清楚なのにゴージャスな雰囲気、強く印象に残り、以来忘れえぬ花になっています。

余談ですが、あの頃はコースタイムの6割位で歩くのが普通でした。翌日の燧岳の記録を見ると、原の小屋（5:05）、柴安嶺（6:50〜7:15）、俎嶺（7:25〜7:50）、長蔵小屋（9:20〜10:10）、大清水（11:30〜11:45）とあります。原稿を書きながら、夢中で歩き回った若き日を懐かしく思い出しています。



【72】ミツマタ

「凄い。大スターマインだよ。向こうへ渡ってじっくり観よう」と私。相棒のU君が「了解」と応じます。

西丹沢・箒沢権現山南稜の急斜面を登攀中、標高750m辺りで突然、左の展望が開けました。大崩壊地が広がり、対岸が大

スターマインの形容がピッタリのミツマタの大木を見付けたのです。まだ3月の初めだということにもう盛りでした。

「ミツマタ見に来たわけじゃないけど、これ見逃す手はないね」というわけで、二人は危うい崩壊地を対岸へ渡りました。もちろんロープで確保をすることです。

現場の「大スターマイン」は期待以上の大物で、こんな立派なのは記憶にありません。この花は下を向いて咲くので、見上げて観賞するのがコツです。黄金色に輝くミツマタを仰ぎ見ながら、私たちは、しばし「桃源郷」を満喫したのです。

ミツマタはジンチョウゲ科の落葉低木で原産地は中国南部やヒマラヤ地方。枝が1年に1度、三又に分岐して成長するのでこの名が付いたといえます。分岐の数で樹齡が分かるといわけです。皮中の繊維が強靱なので、和紙や紙幣の原料として重用され、かつては日本各地で盛んに栽培されていたそうです。食べ物に例えれば、観てよし、食してよしというところでしょうか。早春に西丹沢を歩けば容易に見られるこの花、意外に「実力者」だったのですね。